

開講科目名 / Course	くらし・文化 - 地域の芸術文化振興 - / Living/Culture - Arts management in regions -
時間割コード / Course Code	1241110001
ナンバリングコード / Numbering Code	
開講所属 / Course Offered by	教養教育科目 /
曜日コマ / Day, Period	他
開講区分 / Semester offered	前期 / first semester
単位数 / Credits	2.0
学年 / Year	1,2,3,4
主担当教員 / Main Instructor	朝山 奈津子 / ASAYAMA NATSUKO
科目区分 / Course Group	教養教育科目 社会・文化
教室 / Classroom	
必修・選択 / Required/Elective	選択必修
授業形式 / Class Format	
メディア授業 / Media lecture	-
担当教員名 / Instructor (担当教員所属名 / Affiliation)	袴田 麻祐子 / HAKAMATA MAYUKO (教養教育開発実践センター /)、福田 裕美 / FUKUDA HIROMI (教養教育開発実践センター /)、出 佳奈子 / IDE KANAKO (教育学部 /)、朝山 奈津子 / ASAYAMA NATSUKO (教育学部 /)、テスト教養教育 (教養教育開発実践センター /)
難易度 (レベル) / Level	レベル2
対応する CP / DP / CP/DP	CP・DP 1 見通す力
授業としての具体的到達目標 / Concrete arrival target as the class	青森と関わる芸術に関する見識を深めること 芸術に関する知識を活用して、青森の芸術と地域社会の多面的な関わりについて理解すること
授業の概要 / Summary of the class	芸術をとりまく制度、地域の文化格差、文化権などの観点から、世界・全国と青森・弘前の現状を理解する。 地域の芸能や伝統文化の振興政策について理解する。
授業の内容予定 / Contents plan of the class	<p>【第1日】学部教員とゲストスピーカー、7月上旬の金曜日 18:00頃～ (履修者の都合にあわせて変更の可能性あり) 第1回 弘前における現代芸術のための文化施設とその意義 「弘前れんが倉庫美術館」にて実施。開催中の展覧会および施設の内見を含む。要観覧料 欠席、遅刻、公欠などの取り扱いについては、Teams のスレッドをご参照下さい。</p> <p>【第2日】袴田麻祐子、8月7日 第2回 地域にとって芸術文化とは 芸術文化と「公益」 第3回 国の政策における文化概念 文化庁の成り立ちと扱う範囲 第4回 国の政策における文化概念 文化芸術の「本質面」と「効用面」 第5回 データからみる我が国の芸術文化活動</p> <p>【第3日】袴田麻祐子、8月9日 第6回 データからみる各地域の芸術文化活動 第7回 文化イベントをめぐる力学 第8回 文化芸術の地域間格差</p> <p>【第4日】福田裕美、8月31日 第9回 「地域の伝統芸能」とはなにか～アプローチの変遷と現在～ 第10回 地域の伝統芸能をめぐる法制度と取り組み 第11回 地域の伝統芸能を見てみよう～知る・見る・考えるために～</p> <p>【第3日】福田裕美、9月1日 第12回 「地域の伝統芸能」×「アートマネジメント」の視点 第13回 ディスカッション「地域の伝統芸能のいま」 第14回 「地域の伝統芸能」×「アートマネジメント」取り組み事例 第15回 グループ発表「企画の立案」</p>

成績評価方法及び採点基準 / A scholastic evaluation method and marking standard	前半（福田）： ・講義内の課題 30% ・期末課題 20% 後半（袴田）： ・講義内の課題 25% ・期末課題 25%
予習及び復習等の内容 / Contents such as preparations for lessons and the review	・講義期間中は各日とも、講義内容をよく振り返り、補足の情報収集などして理解を深めること。 また、講義内課題に真摯に取り組み、十分な準備をして次の授業に臨むこと。 （福田先生より） ・北海道・北東北の「地域の伝統芸能」（民俗芸能、伝統的な行事・祭）について、どのようなものがあるか予め調べておくこと。 ・地域の伝統芸能をめぐる昨今の動きについて、アンテナをはっておくこと。 （袴田先生より） ・講義内課題で使用するため、文化イベント（展覧会、公演等）のチラシ（またはパンフレット、フライヤー）を各自2～3枚収集し持参すること。 ・期末課題として、講義内容を踏まえた文化的なイベント（展覧会、公演等）の体験レポートを課す予定。（講義以前に体験した文化的なイベントを対象としても構わないが、直近半年以内のものとする。その場合、体験したイベントのチラシ、パンフレット、Webで情報を得た場合はイベント名・作家や出演者・期日・主催者等の情報がわかる画面のスクリーンショット等を講義終了まで保管しておくこと）
教材・教科書 / The teaching materials, textbook	特になし
参考文献 / bibliography	我が国の文化政策（文化庁 年次報告書） https://www.bunka.go.jp/tokei_hakusho_shuppan/hakusho_nenjihokokusho/r01_bunka_seisaku/index.html このほか、講義内で適宜指示します。
留意点・予備知識 / Point to keep in mind, background	アートワールドひろさきキュアプログラム（副専攻プログラム）必修科目 https://gkm.hirosaki-u.ac.jp/kyoikuinfo/syllabus/program.html
授業内容に関する質問・疑義等 / Question, doubt about class contents	電子メール、Teamsチャットを通じて随時可。
Eメールアドレス・HPアドレス / E-mail address, HP address	窓口教員：朝山奈津子（教育学部） asayaman@hirosaki-u.ac.jp ；出佳奈子（教育学部） idek_48@hirosaki-u.ac.jp
学問分野1（主学問分野） / Discipline 1	A01: 思想, 芸術およびその関連分野
学問分野2（副学問分野） / Discipline 2	A04: 地理学, 文化人類学, 民俗学およびその関連分野
学問分野3（副学問分野） / Discipline 3	A03: 歴史学, 考古学, 博物館学およびその関連分野
実務経験のある教員による授業科目について / About the class subject by the teacher with the work experience	実務経験
地域志向科目 / Local intention subject	地域志向科目
授業形態・授業方法 / Class form, class method	講義、演習
科目ナンバー / The subject number	LA-2-1622-A01

メディア授業による著作物利用の有無について / Whether or not copyrighted works are used in media classes	無 / Nothing
その他 / Others	実務経験のある教員による授業科目：（福田、袴田）これまでに、各自治体や日本芸術文化振興会などの調査委員会や研究組織での調査・研究経験をもち、全国的・全世界的視点から青森・弘前の地域の実情を考察する。（出、朝山）地域の芸術振興に関わるボランティア団体に属し、自治体の助成を継続的に受けながら年間を通じてアートイベントの制作を行っており、現代的な生活に必要とされるアートの在り方を踏まえて授業を行う。

開講科目名 / Course	思想 - 美学入門 - / Philosophy - An introduction to Aesthetics -
時間割コード / Course Code	1242110003
ナンバリングコード / Numbering Code	
開講所属 / Course Offered by	教養教育科目 /
曜日コマ / Day, Period	他
開講区分 / Semester offered	後期 / second semester
単位数 / Credits	2.0
学年 / Year	1,2,3,4
主担当教員 / Main Instructor	森 功次 / MORI NORIHIDE
科目区分 / Course Group	教養教育科目 社会・文化
教室 / Classroom	
必修・選択 / Required/Elective	選択必修
授業形式 / Class Format	講義科目
メディア授業 / Media lecture	-
担当教員名 / Instructor (担当教員所属名 / Affiliation)	森 功次 / MORI NORIHIDE (教養教育開発実践センター /)、出 佳奈子 / IDE KANAKO (教育学部 /)
難易度 (レベル) / Level	レベル2
対応するCP / DP / CP/DP	CP・DP 1 見通す力
授業としての具体的到達目標 / Concrete arrival target as the class	思想, 宗教, 哲学, 歴史, 倫理学あるいはこれらの学問の近接領域についての学識を得ること 上記学問の知識や技能に基づいて, 既成の前提をその根拠にさかのぼって問い返す批判的思考を体得すること 美学, 芸術哲学およびその近接領域についての学識を得ること 上記学問の知識や技能に基づいて, 日常社会への理解を深めること 身の回りの文化的問題について議論できる力をつけること
授業の概要 / Summary of the class	現代英語圏の美学(いわゆる分析美学)の基礎的な議論、概念について学習し、理解を深める。 美学の視点を用いて、身近な文化状況のありかたや現代の社会問題について考察する。
授業の内容予定 / Contents plan of the class	日程については決まり次第お知らせします。 第1回 イントロダクション 第2回 芸術の定義1: 芸術の定義はなぜ求められるのか / 近代美術システムの誕生 / 伝統的な芸術理論 / 単純な機能主義 (再現説、表現説、形式主義、美的機能説) 第3回 芸術とは何か2: 懐疑主義 (ワイツ) / 伝統的な芸術理論をどう読むべきか / 制度説 (ダンター、ディッキー) / 機能主義と手続き主義 第4回 芸術とは何か3: 歴史的アプローチ (レヴィンソン) / 歴史的機能主義 (ステッカー) / 現代の定義論 (束説 (ゴート)、責任転嫁説 (ロベス)) / 第5回 徳美学の動向 / 「こんなものが芸術なのか」という論争に出会ったときのコソ 第6回 芸術批評の哲学1: ヒューム「趣味の標準について」 / 「趣味の良さ」とは何か / 理想的批評家に求められる能力 第7回 芸術批評の哲学2: 不道徳な作品は醜くなるのか / ヒューム解釈をめぐる近年の議論 / 第8回 芸術批評の哲学3: 芸術批評とは何をする事なのか / 批評文を読むときに気をつけるべきこと / ノエル・キャロルの批評理論 / 批評を支えるいくつかの作業 第9回 芸術批評の哲学4: ウォルトン「芸術のカテゴリー」 / 作者の意図の重要性 / 客観的批評を書くために求められること 第10回 芸術批評の哲学5: 価値づけ説への反論 第11回 フェミニスト美学1: 「なぜ偉大な芸術家は存在しなかったのか」 (ノックリン) / 教育・報奨制度・文化慣習における男女格差 第12回 フェミニスト美学2: フェミニズムの歴史概説 / フェミニスト・アートの紹介 第13回 フェミニスト美学3: イエローフィーバーをめぐる倫理的論争 / 「アジア人女性の黒髪が好き」はただの外見の好みの問題なのか / ジェンダーと人種の美学 / 好みは教育で左右できるのか 第14回 フェミニスト美学4: ヌードはなぜ芸術とされてきたのか / ポルノvs芸術の対立について 第15回 フェミニスト美学5: ヌード・ポルノの悪をめぐる論争と表現規制の論理 / 公共の場での萌え絵をめぐる問題
成績評価方法及び採点基準 / A scholastic evaluation method and marking standard	平常評価 (各日の課題50点、リアクションペーパー30点、授業内およびteamsでの質疑応答への参加50点。) 上記を合算して成績評価を行います (100点を超える部分は切り捨て) 期末レポートは課しません。

予習及び復習等の内容 / Contents such as preparations for lessons and the review	予習：必須ではないが、やる気のある学生はリーディングリストの文献を読み、当該トピックについて理解を深めておくこと。 復習：リーディングリストおよび授業内で紹介した文献を参考に、授業内で取り上げた概念について理解を深めるとともに、授業内で紹介した議論を用いて身近な文化的問題について考察すること。
教材・教科書 / The teaching materials, textbook	購入必須の書籍はなし。授業中にプリントを配布します。
参考文献 / bibliography	ロバート・ステッカー『分析美学入門』（森功次訳、勁草書房、2013年） 購入の必要はありません。 分析美学の邦語参考文献リーディングリストを公開しています。やる気のある学生はこちらを参考にしてください。 http://morinorihide.hatenablog.com/entry/20181218/p1
留意点・予備知識 / Point to keep in mind, back ground	美学の初学者に向けた内容ですので、受講にあたっては特段の予備知識は必要としませんが、やる気のある学生は公開しているリーディングリストを参考に、関連文献を読み進めていって下さい。授業終盤の数回ではヌード・ポルノといった話題に触れますので注意して下さい。この手の話題が苦手な人は、申告してもらえれば授業を欠席しても公欠扱いとします。
授業内容に関する質問・疑義等 / Question, doubt about class contents	質問は基本的に授業内にしてほしいです（質問によって説明の悪かった点が改善されますし、話題を掘り下げることでもできますので）が、授業中に聞けなかったことはリアクションペーパー、および授業の前後に口頭、メールにて受け付けます。
Eメールアドレス・HPアドレス / E-mail address, HP address	Eメールアドレス：morinorihide[at]otsuma.ac.jp [at]を@に置き換えてください。
学問分野1（主学問分野） / Discipline 1	A01: 思想，芸術およびその関連分野
学問分野2（副学問分野） / Discipline 2	該当なし
学問分野3（副学問分野） / Discipline 3	該当なし
実務経験のある教員による授業科目について / About the class subject by the teacher with the work experience	なし
地域志向科目 / Local intention subject	なし
授業形態・授業方法 / Class form, class method	対面講義。課題はteamsにて提出。
科目ナンバー / The subject number	LA-2-1624-A01
メディア授業による著作物利用の有無について / Whether or not copyrighted works are used in media classes	有 / Yes
その他 / Others	特にありません。

開講科目名 / Course	芸術 - 音楽の技と心 - ピアノ・詩・声楽 - / Art - Introduction to piano, poetry and vocal music -
時間割コード / Course Code	1241100127
ナンバリングコード / Numbering Code	
開講所属 / Course Offered by	教養教育科目 /
曜日コマ / Day, Period	火 / Tue 4
開講区分 / Semester offered	前期 / first semester
単位数 / Credits	2.0
学年 / Year	1,2,3,4
主担当教員 / Main Instructor	小田 直弥 / ODA NAOYA
科目区分 / Course Group	教養教育科目 社会・文化
教室 / Classroom	
必修・選択 / Required/Elective	選択
授業形式 / Class Format	講義科目
メディア授業 / Media lecture	-
担当教員名 / Instructor (担当教員所属名 / Affiliation)	小田 直弥 / ODA NAOYA (教育学部 /)
難易度 (レベル) / Level	レベル2
対応するCP / DP / CP/DP	CP・DP 1 見通す力
授業としての具体的到達目標 / Concrete arrival target as the class	芸術ならびにその近接領域についての学識を得ること 上記学問の知識や技能に基づいて、演奏表現や作品制作の実践や鑑賞を理解すること
授業の概要 / Summary of the class	演奏表現を支える基礎的なテクニック(技)について、特にピアノ、詩の読み、声楽を実践を通して学ぶ。 音楽の技を用いることで実現される、独特な空間や時間、表現(心)に触れ、音楽や芸術の理解を深める。
授業の内容予定 / Contents plan of the class	授業内容と進行は状況に応じて適宜変更します。 第1回：イントロダクション > 多様な音楽表現に触れ、「共通するテクニック」や「テクニックと表現の関係」についてディスカッションする 第2回：ピアノの基礎 > 指や手首、肘、肩といった身体の使い方と音との関わりを知る > 履修者ごとに課題を設定する 第3回：声楽と詩の朗読の基礎 > 息を吸うことと吐くこと、息のスピード、響く箇所(調音ポイント)といった身体の使い方と音との関わりを知る > 課題曲を通して、詩の朗読のポイントを知る 第4回～第14回：ピアノならびに声楽の実践 > グループレッスンならびに個人レッスンを通して、ピアノや声楽、詩の朗読のテクニックと表現について理解を深める > 偶数回(第4回、第6回等)はピアノの実践、奇数回(第5回、第7回等)は声楽の実践を行う 第15回：演奏試験 8月6日(最終回) > 授業で扱ったピアノならびに歌(朗読付き)の発表 > 学びの振り返り
成績評価方法及び採点基準 / A scholastic evaluation method and marking standard	平常評価(授業への参加態度、課題の習熟度、授業ノート): 70% 最終発表: 30%
予習及び復習等の内容 / Contents such as preparations for lessons and the review	・ 1日40分、毎日の練習を必ず行うこと。練習内容は、授業で指示します。 ・ ピアノや歌は、日常生活とは異なる、それぞれに特徴的な身体(筋肉)の動きや思考が求められることから、毎日練習を行い、時間をかけて身体に定着させていくことが重要です。練習を行わない場合、ピアノや歌に望ましい身体の動きや思考を習得することは困難です。 ・ 履修者は授業担当教員の許可を得ることで、ピアノのある練習室の使用が可能になります。

教材・教科書 / The teaching materials, textbook	随時、資料を配布します。
参考文献 / bibliography	随時、資料を配布します。
留意点・予備知識 / Point to keep in mind, back ground	<ul style="list-style-type: none"> ・授業では西洋音楽の考え方を基本とし、扱う作品も西洋クラシック音楽のみです。 ・授業ではピアノを弾いたり、歌ったりするため、履修者には、それらに前向きに取り組む姿勢が求められます。 ・履修者には、授業外の時間に、コツコツと練習を積み重ねる姿勢が求められます。 ・履修者は、楽譜（音の高さや長さ、強弱記号、表現記号等）が読めることが望ましいです。
授業内容に関する質問・疑義等 / Question, doubt about class contents	直接質問をしたい場合は授業後もしくはメールにて事前にアポイントメントを取ってください。メッセージ上での質問をしたい場合はメールもしくはTeamsにて質問してください。
Eメールアドレス・HPアドレス / E-mail address, HP address	n.oda7[A]hirosaki-u.ac.jp [A]は@のことです。
学問分野1（主学問分野） / Discipline 1	A01: 思想，芸術およびその関連分野
学問分野2（副学問分野） / Discipline 2	A02: 文学，言語学およびその関連分野
学問分野3（副学問分野） / Discipline 3	A03: 歴史学，考古学，博物館学およびその関連分野
実務経験のある教員による授業科目について / About the class subject by the teacher with the work experience	実務経験
地域志向科目 / Local intention subject	なし
授業形態・授業方法 / Class form, class method	演習 (メディア授業に移行した場合は、Teamsで実施します。)
科目ナンバー / The subject number	LA-2-1627-A01
メディア授業による著作物利用の有無について / Whether or not copyrighted works are used in media classes	有 / Yes
その他 / Others	実務経験は演奏家としての経験である。

開講科目名 / Course	地域の芸術・文学 - 日本美術史 - / Regional Art/Literature - History of the Japanese Art -
時間割コード / Course Code	1242100217
ナンバリングコード / Numbering Code	
開講所属 / Course Offered by	教養教育科目 /
曜日コマ / Day, Period	金 / Fri 4
開講区分 / Semester offered	後期 / second semester
単位数 / Credits	2.0
学年 / Year	1,2,3,4
主担当教員 / Main Instructor	出 佳奈子 / IDE KANAKO
科目区分 / Course Group	教養教育科目 グローカル科目
教室 / Classroom	
必修・選択 / Required/Elective	選択必修
授業形式 / Class Format	
メディア授業 / Media lecture	-
担当教員名 / Instructor (担当教員所属名 / Affiliation)	出 佳奈子 / IDE KANAKO (教育学部 /)
難易度 (レベル) / Level	レベル2
対応するCP / DP / CP/DP	CP・DP 1 見通す力
授業としての具体的到達目標 / Concrete arrival target as the class	地域で生み出された多様な芸術・文学に触れることを通して、豊かな表現力を身につけること
授業の概要 / Summary of the class	○江戸時代までの日本美術史の流れを時系列的に概観します。 ○それぞれの時代の表現上の特徴を把握します。 ○個々の作品がうみだされた文化的背景や他国との関係について学びます。 ○津軽藩とかかわりのある美術品に注目し、日本美術史全体のなかに位置づけます。
授業の内容予定 / Contents plan of the class	授業予定 第1回 10月4日 飛鳥時代の仏像 第2回 10月11日 白鳳時代の仏像 法隆寺の仏像など 第3回 10月17日 天平時代の美術 阿修羅像、東大寺の大仏など 第4回 11月1日 檀像と平安時代初期の仏像 第5回 11月8日 平安時代の浄土教美術：平等院鳳凰堂の阿弥陀如来など 第6回 11月15日 平安時代の絵画：仏画・絵巻物 第7回 11月22日 鎌倉時代の絵画：絵巻物・垂迹画・肖像画 第8回 11月29日 鎌倉時代の仏像彫刻：運慶と快慶 第9回 12月6日 室町時代の水墨画：禅宗美術、雪舟、阿見派、狩野派の登場など 第10回 12月13日 室町時代の屏風絵と絵巻 第11回 12月20日 安土桃山時代の美術：狩野永徳と長谷川等伯、南蛮美術など 第12回 1月10日 江戸時代の絵画1：狩野派の展開 第13回 1月15日 江戸時代の絵画2：琳派・尾形光琳と津軽藩 第14回 1月24日 江戸時代の絵画3：奇想派の画家たち（伊藤若冲、曾我蕭白、長沢蘆雪など） 第15回 1月31日 江戸時代の絵画4：円山応挙・洋風画・南画（池大雅、与謝蕪村など） 2月6日 期末試験 授業のテーマは変更することもあります。
成績評価方法及び採点基準 / A scholastic evaluation method and marking standard	各授業で指示した課題への取り組み 20% 期末試験 80% 上記を合算して成績評価を行います。
予習及び復習等の内容 / Contents such as preparations for lessons and the review	【予習】授業であつかう予定の時代や美術作品について、画集等で確認しておくこと。 【復習】授業でとりあげた美術作品や時代背景、概念については、配布資料や画集で確認・整理し、理解しておくこと。
教材・教科書 / The teaching materials, textbook	特に指定しません。授業中にプリントを配布します。
参考文献 / bibliography	授業中に適宜紹介します。

留意点・予備知識 / Point to keep in mind, background	初学者に向けての授業なので、予備知識は特に必要としません。
授業内容に関する質問・疑義等 / Question, doubt about class contents	Eメールアドレスかteamsのチャットを介して質問してください。
Eメールアドレス・HPアドレス / E-mail address, HP address	idek_48@hirosaki-u.ac.jp
学問分野1(主学問分野) / Discipline 1	A01: 思想, 芸術およびその関連分野
学問分野2(副学問分野) / Discipline 2	A03: 歴史学, 考古学, 博物館学およびその関連分野
学問分野3(副学問分野) / Discipline 3	該当なし
実務経験のある教員による授業科目について / About the class subject by the teacher with the work experience	なし
地域志向科目 / Local intention subject	なし
授業形態・授業方法 / Class form, class method	講義
科目ナンバー / The subject number	LA-2-2207-A01
メディア授業による著作物利用の有無について / Whether or not copyrighted works are used in media classes	有 / Yes
その他 / Others	特にありません。

開講科目名 / Course	国際地域・社会・文化 - 美術史研究入門 - / International Area Studies/Society/Culture - An introduction to the Study of the History of Art -
時間割コード / Course Code	1242100142
ナンバリングコード / Numbering Code	
開講所属 / Course Offered by	教養教育科目 /
曜日コマ / Day, Period	木 / Thu 3
開講区分 / Semester offered	後期 / second semester
単位数 / Credits	2.0
学年 / Year	1,2,3,4
主担当教員 / Main Instructor	出 佳奈子 / IDE KANAKO
科目区分 / Course Group	教養教育科目 グローカル科目
教室 / Classroom	
必修・選択 / Required/Elective	選択必修
授業形式 / Class Format	
メディア授業 / Media lecture	-
担当教員名 / Instructor (担当教員所属名 / Affiliation)	出 佳奈子 / IDE KANAKO (教育学部 /)
難易度 (レベル) / Level	レベル2
対応するCP / DP / CP/DP	CP・DP 1 見通す力
授業としての具体的到達目標 / Concrete arrival target as the class	異なる国の地域・社会・文化などを理解することを通して、多元的な知性・知恵・実践的教養能力を身につけること
授業の概要 / Summary of the class	○美術史研究の方法論を理解する。 ○社会における美術やイメージの多様な役割について考察する。 ○聖母マリアからプリキュアまで：過去および現代の女性 / 少女表象をジェンダー視点で解釈する方法を身につける。
授業の内容予定 / Contents plan of the class	<p>第1回 10月3日 導入:授業の流れについて</p> <p>第2回 10月10日 様式史</p> <p>第3回 10月24日 イコノグラフィ(図像学)とキリスト教美術/聖母マリアの生涯</p> <p>第4回 10月31日 聖母マリアの生涯</p> <p>第5回 11月7日 聖母マリア像と信仰(美術の機能)</p> <p>第6回 11月14日 聖母マリアのジェンダー・ロール:「理想の母親像」の生成と受容(美術の機能)</p> <p>第7回 11月21日 エヴァ、ヴィーナス、ニンフたちとセクシュアリティ:誘惑する女の系譜</p> <p>第8回 11月28日 ルネサンスの祝婚画(美術の機能)</p> <p>第9回 12月5日 「芸術概念」の登場</p> <p>第10回 12月12日 《眠れるヴィーナス(少女)》と「ヌード」</p> <p>第11回 12月19日 少女を表現する ディズニー版『白雪姫』と『ねむり姫』</p> <p>第12回 12月26日 少女を表現する ディズニー版『白雪姫』のジェンダー・ロール</p> <p>第13回 1月9日 少女を表現する ディズニー版『ねむり姫』のジェンダー・ロール</p> <p>第14回 1月16日 少女を表現する かわいい女の子の再生産:少女雑誌・少女マンガ・『プリキュア』</p> <p>第15回 1月23日 映画『バービー』における現代の女の子</p> <p>第16回 1月30日 期末試験</p> <p>授業後にコメントペーパーの提出を求めることがあります。 講義内容は多少変更する可能性があります。</p>
成績評価方法及び採点基準 / A scholastic evaluation method and marking standard	レポート(50%)と期末試験(50%)を合算して評価します。
予習及び復習等の内容 / Contents such as preparations for lessons and the review	【予習】授業であつかう予定の時代および地域の美術作品を、図書館に所蔵されている美術全集等で確認しておくこと。 【復習】授業でとりあげた美術作品や美術史研究の方法論、概念については、配布プリントおよび美術全集の写真や解説、また紹介する参考図書などで確認・理解すること。

教材・教科書 / The teaching materials, textbook	特に指定しません。授業中にプリントを配布します。
参考文献 / bibliography	授業中に適宜紹介します。
留意点・予備知識 / Point to keep in mind, back ground	とくにありません。
授業内容に関する質問・疑義等 / Question, doubt about class contents	授業毎のコメントペーパーに記入するか、teamsのチャットまたは下記メールアドレスにお願いします。
Eメールアドレス・HPアドレス / E-mail address, HP address	idek_48@hirosaki-u.ac.jp
学問分野1(主学問分野) / Discipline 1	A01: 思想, 芸術およびその関連分野
学問分野2(副学問分野) / Discipline 2	A03: 歴史学, 考古学, 博物館学およびその関連分野
学問分野3(副学問分野) / Discipline 3	A08: 社会学およびその関連分野
実務経験のある教員による授業科目について / About the class subject by the teacher with the work experience	なし
地域志向科目 / Local intention subject	なし
授業形態・授業方法 / Class form, class method	パワーポイントを用いた講義
科目ナンバー / The subject number	LA-2-2209-A01
メディア授業による著作物利用の有無について / Whether or not copyrighted works are used in media classes	有 / Yes
その他 / Others	特にありません。

開講科目名 / Course	国際地域・社会・文化 - 音楽史研究入門 - / International Area Studies/Society/Culture - An introduction to historical musicology -
時間割コード / Course Code	1242100209
ナンバリングコード / Numbering Code	
開講所属 / Course Offered by	教養教育科目 /
曜日コマ / Day, Period	金 / Fri 3
開講区分 / Semester offered	後期 / second semester
単位数 / Credits	2.0
学年 / Year	1,2,3,4
主担当教員 / Main Instructor	朝山 奈津子 / ASAYAMA NATSUKO
科目区分 / Course Group	教養教育科目 グローカル科目
教室 / Classroom	
必修・選択 / Required/Elective	選択必修
授業形式 / Class Format	
メディア授業 / Media lecture	-
担当教員名 / Instructor (担当教員所属名 / Affiliation)	朝山 奈津子 / ASAYAMA NATSUKO (教育学部 /)
難易度 (レベル) / Level	レベル2
対応するCP / DP / CP/DP	CP・DP 1 見通す力
授業としての具体的到達目標 / Concrete arrival target as the class	異なる国の地域・社会・文化などを理解することを通して、多元的な知性・知恵・実践的教養能力を身につけること
授業の概要 / Summary of the class	作曲家ヨハン・ゼバスティアン・バッハ (1685-1750) の音楽活動と主要作品の概要を掴む。 音楽の研究方法・研究課題の概要を見渡し、「音楽学」、「音楽史」という学問分野の成立と目的を知る。

<p>授業の内容予定 / Contents plan of the class</p>	<p>音楽は、素晴らしいものです！ といっても、その素晴らしさはいったいどこから来るのでしょうか？ なぜ、私たちは音楽を聴いて感激するのでしょうか？ 「音楽学」は、こうした疑問に答えることを目指す学問です。音楽をもっと楽しむために、新たな音楽に出会うために、好きな音楽を広めるために、あるいは、よりうまく演奏するために、音楽学は役立ちます。</p> <p>なお、ほんらい音楽学の対象は幅広く、何もクラシック音楽に限定されるものではありません。本授業では例として、クラシック音楽の研究方法の中から、「歴史的音楽学」を紹介します。</p> <p>トピックとして、以下のものを予定しています。（受講生の関心や理解度に応じて変更することがあります。）</p> <p>第1回 1) なぜバッハ？：（導入）芸術と芸術学、音楽と音楽学 第2回 2) バッハって誰？：伝記研究（1）：バッハの生涯と創作の概要 第3回（2）：バッハの伝記の諸相 第4回 3) バッハの曲ってどれ？：楽譜資料の整備と作品の年代特定 第5回 4) バッハの曲ってどんなの？：様式研究の方法 4-1) 鍵盤曲：書法の分析（1）：クラヴィア作品 第6回（2）：オルガン作品 第7回 4-2) 管弦楽曲：楽曲形式の分析 第8回 4-3) 教会カンタータ：歌詞と音楽の関係 第9回 4-4) 受難曲：神学的アプローチ（1）：キリスト教の福音書における受難物語 第10回（2）：バッハによる聖書解釈としての受難曲 第11回 4-5) オラトリオ：受難物語と降誕物語 第12回 4-6) 連作曲集：バッハの体系的創作 第13回 5) バッハの曲ってどうやって弾くの？歌うの？：演奏実践 第14回 6) 「Bach は小川ではなく大海である」：バッハと後世の作曲家たち 第15回 7) バッハはいかにして巨匠となったか？：バッハと後世の演奏家たち</p> <p>各授業日は、全学の授業日程に従って下記の通りの予定です。なお、受講者あるいは教員の急病・急用や授業の進捗状況によってやむを得ず変更することがあります。</p>
<p>成績評価方法及び採点基準 / A scholastic evaluation method and marking standard</p>	<p>・毎回のフィードバック（40%）：予習・復習として鑑賞した経験や、講義における疑問点、意見などの質および量 ・期末レポート（60%）：授業で提示した研究方法と、自身の音楽経験を踏まえて述べているかどうか</p>

<p>予習及び復習等の内容 / Contents such as preparations for lessons and the review</p>	<p>・授業内で扱う楽曲を聴いておくこと。授業では一部しか試聴できないことが多いので、かならず予習・復習として全体を聴いて下さい。毎週の平均で各2時間程度が必要です。</p> <ul style="list-style-type: none"> -3声のシンフォニア 第9番BWV 795 -トッカータとフーガ 二短調 BWV 565 -F. プソーニ編曲：トッカータとフーガ 二短調 BWV 565 -コラール われらの救い主なるイエス・キリスト Jesus Christus unser Heiland BWV 363 -《さまざまな手法による18のライプツィヒ・コラール》より われらの救い主なるイエス・キリスト BWV 665, 666 -『クラヴィーア練習曲集』第3部より われらの救い主イエス・キリスト BWV 688, 689 -半音階的幻想曲とフーガ 二短調 BWV 903 -2声のインヴェンション 第6番 ホ長調BWV 777 -《平均律クラヴィーア曲集》第1巻より第2番八短調BWV 847 -《フランス組曲》第6番 ホ長調 BWV 817 -オルガン・ソナタ第6番 ト長調 BWV 530 -《イタリア協奏曲》 BWV 971 -無伴奏チェロ組曲第1番BWV1007 -無伴奏ヴァイオリンのためのパルティータ第2番BWV1004 -《音楽の捧げ物》BWV1079 -ヴィオラ・ダ・ガンバとオブリガート・チェンバロのためのソナタBWV1039 -《ブランデンブルク協奏曲》全6曲 -《管弦楽組曲》全4曲 -カンタータ第147番《心と口と行ないと生活がHerz und Mund und Tat und Leben》BWV146 -カンタータ第4番《キリストは死の縄目に繋がれたり Christ lag in Todes Banden》BWV4 -カンタータ第106番《神の時は最良の時 Gottes Zeit ist die allerbeste Zeit》BWV106 -《マタイ受難曲》BWV244 -《クリスマス・オラトリオ》BWV248 -《ゴルトベルク変奏曲》BWV988 -《ゴルトベルク変奏曲の主題に基づく14のカノン》BWV 1087 <p>ほか、授業時に指示します。</p>
<p>教材・教科書 / The teaching materials, textbook</p>	<p>・必要な資料は授業中に配布します。 ・試聴音源は、大学の契約する音楽配信サービス「ナクソス・ミュージック・ライブラリー」を利用して下さい。アクセス方法（IDおよびパスワード）は初回授業時にお知らせします。</p>
<p>参考文献 / bibliography</p>	<p>弘前大学附属図書館本館所蔵： 久保田慶一『バッハ』（音楽之友社、2021） 磯山雅他編著『教養としてのバッハ 生涯・時代・音楽を学ぶ14講』（春秋社、2012） Ch.ヴォルフ『ヨハン・ゼバスティアン・バッハ：学識ある音楽家』秋元里予訳（春秋社、2004） M.ゲック『ヨハン・ゼバスティアン・バッハ』小林義武他訳（東京書籍、2001） 磯山雅『マタイ受難曲』（東京書籍、1994） 角倉一郎監修『バッハ事典』（音楽之友社、1993） 角倉一郎監修『バッハ叢書』全10巻と別巻2巻（白水社、1976-1997） 第1-9巻と別巻1のみ所蔵。 『音楽大事典』全5巻（平凡社、1981-1983）</p> <p>教育学部音楽教育講座所蔵（閲覧の際は教員に直接申し込んで下さい）： 『ニューグローブ世界音楽大事典』全21巻と別巻2巻（講談社、1993）</p> <p>青森県立図書館所蔵： M.ベッツォルト『バッハの街』小岩信治、朝山奈津子訳（東京書籍、2005） D.シューレンバーグ『バッハの鍵盤音楽』佐藤望他訳（小学館、2001） 磯山雅他監修『バッハ事典』（東京書籍、1996）</p> <p>県内図書館に所蔵なし： 久保田慶一他編著『バッハ キーワード事典』（春秋社、2012） 『バッハ全集』（小学館、1996-1999）全15巻 CDと論文や対訳などを含む単行本のセット</p>
<p>留意点・予備知識 / Point to keep in mind, background</p>	<p>・五線譜は読めなくとも構いません。 ・作品鑑賞の際には著作権違反をすることがないように注意して下さい。インターネット上の資料を使う場合には、大学が契約する音楽配信サービスや、パブリックドメインのものを利用して下さい。 ・授業時間内にウェブ上のフォームで回答を求める課題がありますので、毎時、ネットに接続できるデバイスを自費して下さい。 ・本講義は、副専攻プログラム「アートワールドひろさきキュアプログラム」の選択科目です。副専攻プログラムについては以下を参照して下さい https://gkm.hirosaki-u.ac.jp/kyoikuinfo/syllabus/program.html</p>

授業内容に関する質問・疑義等 / Question, doubt about class contents	Teamsチャット、電子メール等で予約の上、随時可。 後期オフィスアワー：火曜5/6時限 授業後にも対応します。
Eメールアドレス・HPアドレス / E-mail address, HP address	asayaman@hirosaki-u.ac.jp
学問分野1（主学問分野） / Discipline 1	A01: 思想，芸術およびその関連分野
学問分野2（副学問分野） / Discipline 2	A03: 歴史学，考古学，博物館学およびその関連分野
学問分野3（副学問分野） / Discipline 3	該当なし
実務経験のある教員による授業科目について / About the class subject by the teacher with the work experience	実務経験
地域志向科目 / Local intention subject	なし
授業形態・授業方法 / Class form, class method	講義
科目ナンバー / The subject number	LA-2-2209-A01
メディア授業による著作物利用の有無について / Whether or not copyrighted works are used in media classes	有 / Yes
その他 / Others	実務経験：担当教員は、地域の芸術振興に関わるボランティア団体に属し、自治体の助成を継続的に受けながら年間を通じて音楽会制作を行っており、現代的な生活に必要とされる音楽の在り方を踏まえて授業を行う。

開講科目名 / Course	国際地域・社会・文化 - トランスナショナリズムの音楽 - / International Area Studies/Society/Culture - Music in Transnationalism -
時間割コード / Course Code	1242100030
ナンバリングコード / Numbering Code	
開講所属 / Course Offered by	教養教育科目 /
曜日コマ / Day, Period	月 / Mon 5
開講区分 / Semester offered	後期 / second semester
単位数 / Credits	2.0
学年 / Year	1,2,3,4
主担当教員 / Main Instructor	諏訪 淳一郎 / SUWA JUNICHIRO
科目区分 / Course Group	教養教育科目 グローカル科目
教室 / Classroom	
必修・選択 / Required/Elective	選択必修
授業形式 / Class Format	
メディア授業 / Media lecture	-
担当教員名 / Instructor (担当教員所属名 / Affiliation)	諏訪 淳一郎 / SUWA JUNICHIRO (国際連携本部 /)
難易度 (レベル) / Level	レベル2
対応するCP / DP / CP/DP	CP・DP 1 見通す力
授業としての具体的到達目標 / Concrete arrival target as the class	異なる国の地域・社会・文化などを理解することを通して、多角的な知性・知恵・実践的教養能力を身につけること
授業の概要 / Summary of the class	音楽を聴く(あるいは演奏・創作する)ことは、人間として存在することの重要な一条件である。しかし、世界の音楽文化は多様であって、その背景には複雑な事情が存在している。この授業では、多角的な知性を育みながら世界の中の一地域で暮らすことの特異性と、人間の音楽による営みの普遍性という二つの側面を有する音楽がもつ文化的な力について理解を深める。
授業の内容予定 / Contents plan of the class	1. 10月2日 序論「近い体験・遠い体験」 2. 10月7日 P0序:「語りえぬもの」のエスノグラフィー 3. 10月15日 『扉をたたく人』視聴 4. 10月28日 『扉をたたく人』リフレクション 5. 11月11日 P01:「いま ここ」の神話論理 6. 11月18日 P02:呼びかけと振り向き 7. 11月25日 アフリカン・ディアスポラ 8. 12月2日 アフリカン・ディアスポラ 9. 12月9日 P03: テリトリーを生み出す「切り分け」(前) 10. 12月16日 P03: テリトリーを生み出す「切り分け」(後) 11. 12月23日 南アジア・西アジア・マグリブ 12. ポストコロニアリズム 13. 1月6日 P04:「あいだ」の感覚(前) 14. 1月14日 P04:「あいだ」の感覚(後) 15. 1月20日 P05:メラネシアのポップ 16. 1月27日 P06:トゥバのホームイ P0 = 『パフォーマンスの音楽人類学』
成績評価方法及び採点基準 / A scholastic evaluation method and marking standard	質問票 60% 最終課題レポート 40%
予習及び復習等の内容 / Contents such as preparations for lessons and the review	予習:教科書を読み次回の導入を理解する。 復習:質問票の振り返り。
教材・教科書 / The teaching materials, textbook	『パフォーマンスの音楽人類学』(勁草書房 2012年)
参考文献 / bibliography	授業中に紹介する。

留意点・予備知識 /Point to keep in mind, background	世界の音楽文化に興味をもって授業に臨んでください。
授業内容に関する質問・疑義等 /Question, doubt about class contents	水曜日 9・10 時限目 Teams
Eメールアドレス・HPアドレス /E-mail address, HP address	suwa @ hirosaki-u.ac.jp (スペース空ける)
学問分野1(主学問分野) /Discipline 1	A04: 地理学, 文化人類学, 民俗学およびその関連分野
学問分野2(副学問分野) /Discipline 2	A01: 思想, 芸術およびその関連分野
学問分野3(副学問分野) /Discipline 3	A03: 歴史学, 考古学, 博物館学およびその関連分野
実務経験のある教員による授業科目について /About the class subject by the teacher with the work experience	なし
地域志向科目 /Local intention subject	なし
授業形態・授業方法 /Class form, class method	講義の後にリフレクションペーパーを書いてもらいます。
科目ナンバー /The subject number	LA-2-2209-A04
メディア授業による著作物利用の有無について /Whether or not copyrighted works are used in media classes	無 / Nothing
その他 /Others	なし

開講科目名 / Course	世界の芸術・文学 - コンテンポラリーアート - / World Art/Literature - The study of the Contemporary Art -
時間割コード / Course Code	1242110002
ナンバリングコード / Numbering Code	
開講所属 / Course Offered by	教養教育科目 /
曜日コマ / Day, Period	他
開講区分 / Semester offered	後期 / second semester
単位数 / Credits	2.0
学年 / Year	1,2,3,4
主担当教員 / Main Instructor	三木 あき子 / MIKI AKIKO
科目区分 / Course Group	教養教育科目 グローカル科目
教室 / Classroom	
必修・選択 / Required/Elective	選択必修
授業形式 / Class Format	
メディア授業 / Media lecture	-
担当教員名 / Instructor (担当教員所属名 / Affiliation)	三木 あき子 / MIKI AKIKO (教養教育開発実践センター /)、出 佳奈子 / IDE KANAKO (教育学部 /)
難易度 (レベル) / Level	レベル2
対応するCP / DP / CP/DP	CP・DP 1 見通す力
授業としての具体的到達目標 / Concrete arrival target as the class	○現代アートについての学術的知識・理解を深める。 ○現代の様々な視覚表現に触れることにより、感性や想像力・創造力を高める。 ○現代アートを通して、世界や地域・社会の様々な課題に関心を持ち、自ら問い、考え、言葉にする力を養う。 ○将来のキャリアや生活形成、地域社会への貢献を想像することに繋がる。
授業の概要 / Summary of the class	弘前れんが倉庫美術館を含む国内外各地の美術館の立上げを担った専門家が、「歴史的流れと社会背景」、「現代アートの世界」、「アーティストたちの実践」、「アジアの現代アート」、「アートと地域」といった幅広い視点から現代アートへの理解を促します。アートに関する基本的知識を得るだけでなく、現代アートの多様な現場や鑑賞すること、さらには生活や地域におけるアートの可能性等について考えます。
授業の内容予定 / Contents plan of the class	(予定・微妙な変更の可能性あり・実施日程は決まり次第お知らせします) 第1回：美術の流れをつかむ(美術史入門) I 第2回：美術の流れをつかむ(美術史入門) II 第3回：美術の流れをつかむ(美術史入門) III 第4回：日本現代美術史「戦後～現在まで」 第5回：キュレーションの現場から～21世紀アートのトピックをめぐって 第6回：アーティストたちの取組み I 第7回：アーティストたちの取組み II 第8回：現代アートはわからない? (事前に受け取った現代アートに関する様々な問いから抜粋して議論) 第9回：アジアの現代アートシーン 第10回：現代アートの世界I：美術館～オルタナティブスペース 第11回：現代アートの世界II：国際展・芸術祭 第12回：現代アートの世界III：アートマーケット 第13回：地域と現代アートー場をつくる 第14回：現代建築を知る 第15回：鑑賞体験についての課題
成績評価方法及び採点基準 / A scholastic evaluation method and marking standard	授業内課題30% , 期末課題(レポート)70%
予習及び復習等の内容 / Contents such as preparations for lessons and the review	【予習】現代美術やコンテンポラリーアートを扱う美術館についてインターネットや本を通して情報を得ること。 【復習】授業中に紹介したアーティストや展覧会、イベントなどの事例を調べたり、確認したりすること。
教材・教科書 / The teaching materials, textbook	資料がある場合は、teamsにデータをアップロードします。
参考文献 / bibliography	授業中に適宜紹介します。

留意点・予備知識 /Point to keep in mind, background	特にありません。
授業内容に関する質問・疑義等 /Question, doubt about class contents	Teamsのチーム内のチャットでお願いします。
Eメールアドレス・HPアドレス /E-mail address, HP address	担当教員：出 佳奈子 (idek_48@hirosaki-u.ac.jp)
学問分野1(主学問分野) /Discipline 1	A01: 思想, 芸術およびその関連分野
学問分野2(副学問分野) /Discipline 2	A03: 歴史学, 考古学, 博物館学およびその関連分野
学問分野3(副学問分野) /Discipline 3	該当なし
実務経験のある教員による授業科目について /About the class subject by the teacher with the work experience	実務経験
地域志向科目 /Local intention subject	地域志向科目
授業形態・授業方法 /Class form, class method	集中講義：日程については以下のとおり 10月および11月の土日(全部で4日間) 日程については決まり次第連絡します。
科目ナンバー /The subject number	LA-2-2211-A01
メディア授業による著作物利用の有無について /Whether or not copyrighted works are used in media classes	有 / Yes
その他 /Others	美術館をはじめとするアートに関する場所で多くの展覧会等を手がけてきたキュレーターによる講義です。

開講科目名 / Course	世界の芸術・文学 - 舞台芸術概論 - / World Art/Literature - An introduction to the arts of theatrical production -
時間割コード / Course Code	1242110001
ナンバリングコード / Numbering Code	
開講所属 / Course Offered by	教養教育科目 /
曜日コマ / Day, Period	他
開講区分 / Semester offered	後期 / second semester
単位数 / Credits	2.0
学年 / Year	1,2,3,4
主担当教員 / Main Instructor	朝山 奈津子 / ASAYAMA NATSUKO
科目区分 / Course Group	教養教育科目 グローカル科目
教室 / Classroom	
必修・選択 / Required/Elective	選択必修
授業形式 / Class Format	
メディア授業 / Media lecture	-
担当教員名 / Instructor (担当教員所属名 / Affiliation)	舘 亜里沙 / TACHI ARISA (教養教育開発実践センター /)、朝山 奈津子 / ASAYAMA NATSUKO (教育学部 /)、テスト教養教育 (教養教育開発実践センター /)
難易度 (レベル) / Level	レベル2
対応するCP / DP / CP/DP	CP・DP 1 見通す力
授業としての具体的到達目標 / Concrete arrival target as the class	世界のすぐれた芸術・文学作品に触れることを通して、高い知性と豊かな感性を身につけること
授業の概要 / Summary of the class	東西の舞台芸術 (能、文楽、歌舞伎、バレエ、オペラ、演劇など) について、その歴史を踏まえつつ、ドラマ・音楽・美術・演出などの総合的な観点を身につける。 各舞台芸術ジャンルで古典ないしスタンダードなレパートリーと称される演目について、現代における上演の意義を考察する。

<p>授業の内容予定 / Contents plan of the class</p>	<p>授業は以下のような内容で進める。 授業の進度や履修者の関心等に応じて内容を変更する可能性がある。</p> <p>第1回 授業の主旨および関連資料の探し方（朝山奈津子）【メディア授業オンデマンド方式、第1日の1週間前までに公開】</p> <p>第1-2日（館垂里沙）【11月16日（土）10:20～17:30・17日（日）10:20～16:00】</p> <p>第2回 オペラのかたち（18世紀まで）：オペラの誕生から「番号オペラ」と称される古典的オペラの型が確立するまでを概観する。 モンテヴェルディ《オルフェオ》、ヘンデル《エジプトのジュリオ・チェザレ》、モーツァルト《コジ・ファン・トゥッテ》ほか</p> <p>第3回 オペラのかたち（19世紀）：「番号オペラ」が崩れる過程と、19世紀の作曲家達が試みた諸ジャンルや作風を概観する ドニゼッティ《ランメルモールのルチア》、ヴェルディ《リゴレット》、プッチーニ《トスカ》ほか</p> <p>第4回 バレエの芸術性：宮廷バレエおよびその後のロマンティック・バレエ/クラシック・バレエ/モダン・バレエの変遷を概観する。 リュリ《町人貴族》、アダン《ジゼル》、チャイコフスキー《白鳥の湖》、ストラヴィンスキー《春の祭典》ほか</p> <p>第5回 近現代の音楽劇：イリュージョンか脱イリュージョンか、アンチ・オペラか伝統的オペラか等、20世紀のオペラ/音楽劇史に巻き起こった議論を軸に、舞台芸術の多様性に触れる。 ストラヴィンスキー《エディプス王》、サティ《バラード》、ライヒ《スリー・テイルズ》ほか</p> <p>第6回 オペラを「読む」ワーグナー《ラインの黄金》（《ニーベルングの指環》序夜）に投影される社会</p> <p>第7回 演出で楽しむ《ラインの黄金》（シェロー、クプファー、シュレーマー、ウォーナー、ネミロヴァほかの諸演出の比較・考察）</p> <p>第8回 オペラ演出の仕事：《メリー・ウィドウ》を例に</p> <p>第3-4日（小塩さとみ）【2月13日（木）・14日（金）】</p> <p>第9回：日本の舞台芸術と音楽の歴史</p> <p>第10回：能と狂言（その1）演劇空間の特徴・狂言の鑑賞</p> <p>第11回：能と狂言（その2）音楽的な特徴・能の鑑賞</p> <p>第12回：歌舞伎（その1）演劇空間と音楽的な特徴</p> <p>第13回：歌舞伎（その2）多様な演劇様式の比較</p> <p>第14回：文楽（その1）文楽の演劇的・音楽的特徴</p> <p>第15回：文楽（その2）文楽の作品鑑賞＋日本の伝統芸能に関するまとめ</p>
<p>成績評価方法及び採点基準 / A scholastic evaluation method and marking standard</p>	<p>前半（館） ・レポート課題（最終授業時に提示）50%</p> <p>後半（小塩） ・リアクションペーパー（毎回の授業で配布）25% ・レポート課題（最終授業時に提示）25%</p>
<p>予習及び復習等の内容 / Contents such as preparations for lessons and the review</p>	<p>予習：授業への理解がより深まるよう、シラバスに記載された演目については事前にあらすじや配役を読んでおくことが望ましい。また、高校までに学習した日本史（文化史）について確認しておくこと。</p> <p>復習：授業で扱ったものの中で関心をもったジャンルについて自分でさらに調べたり視聴したりする。</p>
<p>教材・教科書 / The teaching materials, textbook</p>	<p>随時プリントを配布。</p>

参考文献 /bibliography	佐和田敬司ほか編 『演劇学のキーワード』（ペリかん社、2007） ロジャー・パーカー著（大崎滋生訳）『オックスフォードオペラ史』（平凡社、1999） 県立図書館所蔵 永竹由幸 『痛快！オペラ学』（集英社インターナショナル、2001） エリカ・フィッシャー＝リヒテ（中島裕昭ほか訳）『パフォーマンスの美学』（論創社、2009） 片桐功ほか 『はじめての音楽史：古代ギリシャの音楽から日本の現代音楽まで』（2017） 長木誠司 『オペラの20世紀 夢のまた夢へ』（平凡社、2015） 県内所蔵なし、弘前大学図書館へ購入依頼中 小塩さとみ 『日本の音・日本の音楽』アリス館、2015 弘前市立図書館、県立図書館ほか所蔵 徳丸吉彦 『ものがたり日本音楽史』岩波書店、2019 山本東次郎 『中・高校生のための狂言入門』平凡社、2005 津村禮次郎 『能がわかる100のキーワード』小学館、2001 配川美加 『歌舞伎の音楽・音』音楽之友社、2016 西川浩平 『歌舞伎音楽を知る：一歩入ればそこは江戸』ヤマハミュージックメディア、2009 八坂賢二郎 『音で観る歌舞伎：舞台裏からのぞいた伝統芸能』新評論、2009 桐竹勘十郎、吉田玉女 『文楽へようこそ』小学館、2014 茂手木潔子 『文楽：声と音と響き』音楽之友社、1988
留意点・予備知識 /Point to keep in mind, background	週末および期末の集中授業となるので、日程に注意すること。
授業内容に関する質問・疑義等 /Question, doubt about class contents	・講義期間中：授業の前後 ・講義期間外：窓口教員を通じて随時。オフィスアワー：火曜5/6時限。
Eメールアドレス・HPアドレス /E-mail address, HP address	窓口教員：朝山奈津子 asayaman@hirosaki-u.ac.jp
学問分野1（主学問分野） /Discipline 1	A01: 思想, 芸術およびその関連分野
学問分野2（副学問分野） /Discipline 2	A03: 歴史学, 考古学, 博物館学およびその関連分野
学問分野3（副学問分野） /Discipline 3	A02: 文学, 言語学およびその関連分野
実務経験のある教員による授業科目について /About the class subject by the teacher with the work experience	実務経験
地域志向科目 /Local intention subject	なし
授業形態・授業方法 /Class form, class method	講義、演習
科目ナンバー /The subject number	LA-2-2211-A01
メディア授業による著作物利用の有無について /Whether or not copyrighted works are used in media classes	有 / Yes
その他 /Others	実務経験のある教員による授業科目：（館）現在、オペラの演出家としても複数の舞台を手がけており、舞台制作の観点から講義を行う。（小塩）これまでに、各自治体の調査委員会や研究組織での民俗芸能の調査・研究経験を持ち、全国的・全世界的視点、また伝統芸能と民俗芸能の両分野における知見をもって講義を行う。

開講科目名 / Course	地域の多様性と活性化 - 地域とアートワールド - / Regional Diversity and Revitalization - Artworlds and regions -
時間割コード / Course Code	1241200033
ナンバリングコード / Numbering Code	
開講所属 / Course Offered by	教養教育科目 /
曜日コマ / Day, Period	水 / Wed 4
開講区分 / Semester offered	前期 / first semester
単位数 / Credits	2.0
学年 / Year	1,2,3,4
主担当教員 / Main Instructor	朝山 奈津子 / ASAYAMA NATSUKO
科目区分 / Course Group	教養教育科目 グローカル科目
教室 / Classroom	
必修・選択 / Required/Elective	選択
授業形式 / Class Format	
メディア授業 / Media lecture	-
担当教員名 / Instructor (担当教員所属名 / Affiliation)	小杉 在良 / KOSUGI ARIYOSHI (教養教育開発実践センター /)、出 佳奈子 / IDE KANAKO (教育学部 /)、朝山 奈津子 / ASAYAMA NATSUKO (教育学部 /)
難易度 (レベル) / Level	レベル3
対応するCP / DP / CP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
授業としての具体的到達目標 / Concrete arrival target as the class	地域が孕む様々な問題や地域が持つ様々な魅力を理解すること 地域の問題や魅力を理解した上で、地域活性化の方策を考察すること
授業の概要 / Summary of the class	弘前れんが倉庫美術館で開催中の蜷川実花展を題材に、写真撮影を通じて弘前市をアピールするアクションを企画します。 地域に合った「アート」の持続可能性を戦略的に学びます。 「なんでもアート」に陥らないために、アートの概念を学びます。 弘前の「アートワールド」の問題点を見つけ出し、その改善や解決のために何ができるか、どこにどのように働きかけるべきかを考えます。 以上により、アートそれぞれの「カッコよさ」をアピールする手法を学びます。
授業の内容予定 / Contents plan of the class	第1回 4月17日(水)(オリエンテーション、講義)「なんでもアート」はなぜダメなのか?(出、朝山(教育学部美術教育および音楽教育講座)) 第2回 4月24日(水)(講義)AOMORI GOKAN Project の概要:「アート」を見に来る人のためにできること(小杉在良(弘前れんが倉庫美術館運営統括)) 第3回 5月8日(水)(講義)「アート」のターゲットは誰か?(樽澤武秀(HIROSAKI AIR)) 第4回 5月15日(水)(事例研究)写真に関するワークショップのターゲットを調べてみよう(小杉、出、朝山) 第5回 5月22日(水)(事例研究)蜷川実花展の見方(小杉、出、朝山) 第6回 5月29日(水)(事例研究)鑑賞力を磨くレッスン:視覚から嗅覚への転換(出、朝山) 第7回 6月5日(水)(事例研究)蜷川実花展の作品分析(小杉、出、朝山) 第8回 6月12日(水)(演習)地域課題の洗い出し:「アート」のための街づくりに必要なことを整理しよう(小杉、樽澤、出、朝山) 第9回 6月19日(水)(演習)アイデアの具体化:何を届けるか(小杉、出、朝山) 第10回 6月26日(水)(演習)ターゲットの具体化:誰に届けるか(小杉、樽澤、出、朝山) 第11回 7月3日(水)(演習)プロジェクトの具体化:どうやって届けるか(小杉、樽澤、出、朝山) 第12回 7月10日(水)(演習)プロジェクトの試行:問題点を見つけて完成度を高める(小杉、出、朝山) 第13回 7月17日(水)(演習)プロジェクトの情報化:プレスリリースを書いてみる(小杉、出、朝山) 第14回 7月24日(水)(演習)広報材料の準備(小杉、出、朝山) 第15回 7月31日(水)(演習)プロジェクトの発信(小杉、樽澤、出、朝山) 実施日はすべて予定。受講者および教員の急病・急用や、授業の進捗状況によって変更となる可能性がある。

成績評価方法及び採点基準 / A scholastic evaluation method and marking standard	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内の課題への取り組み（20%）：期日どおりに提出されたかどうか、課題に対して自分の意見を持つと努めているか ・授業内のディスカッションへの取り組み（40%）：コメントの質および量 ・発表への取り組み（40%）：話し合いへの参加の積極性、情報収集の質および量
予習及び復習等の内容 / Contents such as preparations for lessons and the review	<ul style="list-style-type: none"> ・弘前市・青森県の文化政策や、文化的な催事について、情報収集を積極的に行うこと。 ・演習の準備を事前に丁寧に行うこと。 ・機会を捉えて、さまざまなアートイベントに参加してみる。
教材・教科書 / The teaching materials, textbook	授業内で適宜配付・指示。
参考文献 / bibliography	<p>【弘前大学附属図書館 所蔵】</p> <p>佐々木健一『美学への招待』、中央公論社、2004年。（中公新書1741）</p> <p>山本晋司編『資源化する文化』、弘文堂、2007年。（資源人類学2）</p> <p>アーサー・ダントー「アート・ワールド」、西村清和編『分析美学基本論文集』、勁草書房、2015年、9-35頁。</p> <p>渡辺裕『サウンドとメディアの文化資源学：境界線上の音楽』、春秋社、2013年。</p> <p>ハワード・ベッカー『アート・ワールド』後藤将之訳、慶應大学出版会、2016年。</p> <p>熊倉純子監修、菊地拓児、長津結一郎編『アートプロジェクト（芸術と共創する社会）』、水曜社、2014年。</p> <p>クレア・ビショップ『人工地獄：現代アートと観客の政治学』大森俊克訳、フィルムアート社、2016年。</p> <p>藤田直哉編著『地域アート：美学／制度／日本』、堀之内出版、2016年。</p> <p>弘前市教育委員会編『弘前の文化財』、弘前市教育委員会、2017年。</p> <p>小林真理編『文化政策の思想』、東京大学出版会、2018年。（文化政策の現在1）</p> <p>小林真理編『拡張する文化政策』、東京大学出版会、2018年。（文化政策の現在2）</p> <p>小林真理編『文化政策の展望』、東京大学出版会、2018年。（文化政策の現在3）</p>
留意点・予備知識 / Point to keep in mind, background	<ul style="list-style-type: none"> ・授業開始までに、受講者の自己紹介を兼ねたアンケートを実施しますので、回答して下さい。 ・副専攻「アートワールドひろさきキュアプログラム」コア科目です。副専攻履修者は必ず受講してください。なお、副専攻として履修する場合は、前年までに「地域の芸術文化振興」を受講して下さい。 https://gkm.hirosaki-u.ac.jp/kyoikuinfo/syllabus/program.html ・この授業は、後期に行われる「キャリア・デザイン アート・インターンシップ」に接続します。この授業で演習として検討した内容を後期の授業で実践します。できるだけ、通年で受講して下さい。 ・授業内で、「弘前市 市民参加型まちづくり1%システム」への応募をめざします。夏期休業中（9月予定）に審査会があります。希望者は審査会のプレゼンテーションに参加することができます
授業内容に関する質問・疑義等 / Question, doubt about class contents	電子メール、Teamsを通じて随時可。
Eメールアドレス・HPアドレス / E-mail address, HP address	窓口教員：朝山奈津子 asayaman@hirosaki-u.ac.jp
学問分野1（主学問分野） / Discipline 1	A01: 思想, 芸術およびその関連分野
学問分野2（副学問分野） / Discipline 2	A03: 歴史学, 考古学, 博物館学およびその関連分野
学問分野3（副学問分野） / Discipline 3	A09: 教育学およびその関連分野
実務経験のある教員による授業科目について / About the class subject by the teacher with the work experience	実務経験
地域志向科目 / Local intention subject	地域志向科目
授業形態・授業方法 / Class form, class method	講義、演習
科目ナンバー / The subject number	LA-2-2215-A01

<p>メディア授業による著作物利用の有無について / Whether or not copyrighted works are used in media classes</p>	<p>無 / Nothing</p>
<p>その他 / Others</p>	<p>実務経験について：学部所属の担当教員は、地域の芸術振興に関わるボランティア団体に属し、自治体の助成を継続的に受けながら年間を通じてアートイベント制作を行っており、現代的な生活に必要なとされるアートの在り方を踏まえて授業を行う。非常勤講師は、アートプロジェクトのボランティア、アートNPO法人の運営を経て、現在は公立の文化施設の運営に当たっている。ゲストスピーカーは、学芸員として都内博物館に勤務し、首都圏および弘前市内でアートプロジェクトのキュレーションに豊富な経験を持つ。</p> <p>地域指向科目について：地域に合った「アート」の持続可能性を戦略的に学びます。「なんでもアート」に陥らないために、アートの概念を学びます。弘前の「アートワールド」の問題点を見つけ出し、その改善や解決のために何ができるか、どこにどのように働きかけるべきかを考えます。地域に合った「アート」の持続可能性を戦略的に学びます。</p>

開講科目名 / Course	キャリアデザイン - アート・インターンシップ - / Career Design - Practice in the Art Management -
時間割コード / Course Code	1242200017
ナンバリングコード / Numbering Code	
開講所属 / Course Offered by	教養教育科目 /
曜日コマ / Day, Period	水 / Wed 4
開講区分 / Semester offered	後期 / second semester
単位数 / Credits	2.0
学年 / Year	2,3,4
主担当教員 / Main Instructor	出 佳奈子 / IDE KANAKO
科目区分 / Course Group	教養教育科目 キャリア教育
教室 / Classroom	
必修・選択 / Required/Elective	
授業形式 / Class Format	
メディア授業 / Media lecture	-
担当教員名 / Instructor (担当教員所属名 / Affiliation)	小杉 在良 / KOSUGI ARIYOSHI (教養教育開発実践センター /)、出 佳奈子 / IDE KANAKO (教育学部 /)、朝山 奈津子 / ASAYAMA NATSUKO (教育学部 /)
難易度 (レベル) / Level	レベル3
対応するCP / DP / CP/DP	CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
授業としての具体的到達目標 / Concrete arrival target as the class	卒業後のキャリア形成において、必要となる様々な知識や技能、態度を理解・体得すること 自分自身のキャリアについて、当事者意識を持って主体的・能動的に学習する態度を持つこと
授業の概要 / Summary of the class	アートツーリズムを軸に、弘前と人をつなぐ方法について考えます。 青森のアートをめぐるツアープログラムを学生目線で開発します。 美術作品を発送源にランチメニューを開発します。 弘前コンベンション協会を通じて、ツアープログラムを発信します。 上記の学びを通して、とりわけ、旅行業・飲食業・観光関係・文化政策関係の就職活動における企業インターンシップにも役立つスキルを身につけます。
授業の内容予定 / Contents plan of the class	<p>第1回 10月09日：アートツーリズムとは何か：事例と効果</p> <p>第2回 10月16日：旅行業とツアーの作り方について (弘前観光コンベンション協会による講義)</p> <p>第3回 10月23日：弘前れんが倉庫美術館の収蔵品と次年度の展覧会について (弘前れんが倉庫美術館学芸員による講義)</p> <p>第4回 10月30日：ツアー・コンセプトを考える : 雑誌でターゲットリサーチ</p> <p>第5回 11月06日：アートと食事：ランチメニューの開発について (喫茶batonによる講義)</p> <p>ツアー班とランチ班に分かれる。</p> <p>第6回 11月13日：ツアー・コンセプトを考える : 雑誌でターゲットおよび事例リサーチ</p> <p>第7回 11月20日：ツアー班 ツアー先をマッピングしてルート決定 ランチ班 参考にする作品に関連したランチ内容の検討・決定</p> <p>第8回 11月27日：中間報告会(ツアー内容・ランチ内容の検討)</p> <p>第9回 12月04日：ツアー班 弘前観光コンベンション協会へのプレゼン準備 ランチ班 喫茶batonへのプレゼン準備</p> <p>第10回 12月11日：企業向けプレゼン(ツアーおよびランチ内容の発表)</p> <p>第11回 12月18日：ツアー内容・ランチ内容の練り直し(修正)</p> <p>第12回 12月25日：ランチの試作会(試食あり) 実施日については変更の可能性あり</p> <p>第13回 1月22日：企業向け最終プレゼンとランチ試食会 実施日については変更の可能性あり</p> <p>第14回 1月29日：ツアー班 ツアー内容手直し(弘前観光コンベンション協会と打ち合わせ兼ねる) ランチ班 ラunchメニュー手直し(喫茶batonと打ち合わせ兼ねる)</p> <p>第15回 2月第一週目の週末：テストツアー実施+マスコミ向けツアー発表会 実施日については変更の可能性あり</p>

成績評価方法及び採点基準 / A scholastic evaluation method and marking standard	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内課題（50%） ・プレゼンテーションへの貢献および内容（50%）
予習及び復習等の内容 / Contents such as preparations for lessons and the review	<p>【予習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アート、ツアー、ランチメニューに関する情報収集を行ってください。 ・全国ないし世界の展覧会や美術館・博物館、旅行、食事の広報材料（チラシ、ポスター、ウェブサイトなど）を閲覧・収集してください。 <p>【復習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学芸員や事業者の方々の助言を振り返りながらツアーおよびランチを考案・改良してください。 ・イベント実施後は参加者の反応を振り返ります。
教材・教科書 / The teaching materials, textbook	授業時に適宜配付
参考文献 / bibliography	特になし
留意点・予備知識 / Point to keep in mind, back ground	<ul style="list-style-type: none"> ・履修者数の上限は16名とします。 ・副専攻「アートワールドひろさきキュアプログラム」の対象科目です。ただし、プログラムに参加していなくても履修できます。
授業内容に関する質問・疑義等 / Question, doubt about class contents	電子メールやLMSを通じて随時。
Eメールアドレス・HPアドレス / E-mail address, HP address	窓口教員：出佳奈子 idek_48@hirosaki-u.ac.jp
学問分野1（主学問分野） / Discipline 1	A01: 思想, 芸術およびその関連分野
学問分野2（副学問分野） / Discipline 2	Z95: 学際・新領域
学問分野3（副学問分野） / Discipline 3	A07: 経済学, 経営学およびその関連分野
実務経験のある教員による授業科目について / About the class subject by the teacher with the work experience	実務経験
地域志向科目 / Local intention subject	地域志向科目
授業形態・授業方法 / Class form, class method	講義、演習、実習
科目ナンバー / The subject number	LA-3-1651-A01
メディア授業による著作物利用の有無について / Whether or not copyrighted works are used in media classes	無 / Nothing
その他 / Others	<p>講師には、実務経験者として弘前れんが倉庫美術館スタッフおよび都内美術館学芸員兼HIROSAKI AIR主催者を含みます。また、弘前観光コンベンション協会と喫茶室batonの方々にもご協力いただきます。</p> <p>担当教員：出 佳奈子（教育学部）・朝山奈津子（教育学部） 非常勤講師：小杉在良（弘前れんが倉庫美術館） ゲストスピーカー：樽澤武秀（NextCommonsLab弘前、HIROSAKI AIR ほかノアド・ミュージアム学芸員） 樽澤優香（HIROSAKI AIR ほかノデザイナー）</p>